

平成30年度

# 北海道教育大学教職大学院実習実施要領集

M1 ストレートマスター	学校課題俯瞰実習	----- P	2~P	6
M2 ストレートマスター	自己課題解決・検証実習	----- P	7~P	8
M1 現職教員	学校運営実習	----- P	9~P	11
M1 現職教員	リーダー力育成基礎実習 I	----- P	12~P	14
M1 現職教員	リーダー力育成基礎実習 II	----- P	15~P	16
M2 現職教員	学校課題解決・検証実習	----- P	17~P	18
実習日程一覧		----- P		19

# M1ストレート 学校課題俯瞰実習

## 1 実習科目のねらい・目標

- (1) 附属学校（小学校・中学校）及び公立高等学校の組織・運営等を自らの実習テーマに基づき観察・調査して学校全体の機能を俯瞰するとともに、共通科目で学ぶ教科指導、生徒指導、教育相談、学級経営、学校経営に関する理論と関連付けて理解できるようにする。
- (2) 異校種一日訪問実習、学校研究会参加を通して、様々な学校の教育活動の実際を学び、広い視野から学校教育活動全般を俯瞰する。
- (3) 自己の専門性を生かした教科・領域等の授業実践を通して、教師としての使命感・自覚を身に付けるとともに、子ども理解に基づく授業計画力、授業指導力、授業分析力を養う。また、計画的・意図的な学級運営、児童生徒理解に基づく生徒指導等について基礎的な実践的指導力を培う。

※本実習を通して自己課題を明確にし、培った実践的指導力をベースに2年次の自己課題解決・検証実習へ発展させる。

## 2 実習の回数 【225時間：5単位】

- (1) 事前指導 2回 各4コマ 合計：8時間
- (2) 実習 前期（第1、第2クォーター連続 90時間）＋（セミナー 12時間）  
後期（第3、第4クォーター連続 90時間）＋（セミナー 12時間）
- (3) 事後指導 前期終了後 1回 2コマ（4時間）  
後期終了後 3回 各1.5コマ（9時間）

## 3 実習の具体的内容

### (1) 事前指導

- ① 学校現場での多岐にわたる課題を解決するためには、学校全体、あるいは地域も含めた広い視野から俯瞰する必要があること、及びこの実習が共通科目で学ぶ理論を実践に関連づける場であることを解説し、この実習で用意した4領域についての意義を説明する。さらに、学校の組織運営に関する基本事項や学校課題とリーダーの役割等について理解する。
- ② 院生の実習テーマ(仮)及び実践教科を明らかにする。なお、実習期間中における実践教科の学習単元や学習内容を事前に調べさせ見通しをもたせる。また、前期の事後指導で実習テーマ(仮)を再検討し、後期の実習テーマを確定する。
- ③ 4領域の観点例を参考にしながら自己の実習テーマに基づき、それぞれの俯瞰の観点を決める。
- ④ 各キャンパスの実情を踏まえ、異校種一日訪問実習、学校研究会参加を計画する。

## (2) 実 習

### ①実習校

附属学校を原則とする。ただし、校種（高等学校等）によっては、別途検討する。

### ②実習の期間

実習については、第1と第2クォーター、第3と第4クォーターを繋げて、それぞれ4週間として行う。実習日は水・木・金の週3日を基本とするが、附属学校の事情を考慮の上、できるだけ毎日実習することが望ましい。

### ③実習の内容

ア 4領域の観点例を参考に学校の教育活動を俯瞰し、実習ノートに記録する。

イ 授業実践をする。

- ・前期は、4時間程度、後期は8時間程度実施する。
- ・授業実践に当たっては、事前に指導略案を担当教諭に提出する。
- ・授業の記録化を図るとともに、分析と考察を実習ノートにまとめる。
- ・授業実施の事前事後には、セミナーや空き時間をつかって大学教員の指導を受ける。

ウ 朝の会、帰りの会、給食、清掃、遊び時間、委員会活動、クラブ活動、部活、行事等々の日常活動に積極的にかかわることを通して、学級経営や生徒指導等の実際について体験的に学ぶ。

エ 前・後期において、学校研究会の授業参観と分科会参加をし、各自の視点により実習ノートにまとめる。できるだけ、院生による計画・運営・実施とする。

オ 前・後期において、幼、小、中、高、特別支援への異校種一日訪問実習を実習ノートにまとめる。できるだけ、院生による計画・運営・実施とする。

### ④4領域の観点例

4領域について、資料収集、調査、観察をして実習ノートに記録する。

ア 「教育課程の編成及び教科等の指導に関する領域」の観点例

(例1)学校の教育目標のもとに、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間がどのように位置づけられ、また、学校教育法施行規則及び学習指導要領の基でどのように創意工夫が盛り込まれているかを調査しまとめる。

(例2)共通科目の履修内容を踏まえながら附属学校の授業を参観し、学習指導法、授業内容の概略と進め方、必要な技術・技能・評価法等について学び、「子どもにわかる授業を行うために必要なこと」「子どもに主体的に学んでいけるための力をつけさせるために必要なこと」について観察をもとに自分の考えをまとめる。

イ 「生徒指導・教育相談に関する領域」の観点例

(例1)実習校の生徒指導体制と教育相談体制及び活動状況について資料を収集しまとめる。

(例2)子どもの問題行動、教育相談の事例、保護者とのかかわりに関する過去の事例と学校の対応について、実習校や各市の児童福祉施設、病院、家庭裁判所等の関係機関において可能であれば事例を集め、生徒指導と関係諸機関との連携の在り方について考察しまとめる。

(例3)共通科目の内容に沿って、①発達過程を重視した指導の推進、②個の確立を目指す指導の推進、③望ましい人間関係の育成の推進、④生徒指導における管理主義の克服、のいずれかの観点から生徒指導の在り方に関する自分なりの考えをまとめる。

(例4)抽出児の観察・調査・かかわり等により行動分析及び望ましい対応の仕方等について考察してまとめる。

#### ウ 「学級経営に関する領域」の観点例

(例1) 共通科目の「生きる力」を育む学級・学年経営の実際と課題」において作成する学級経営案と、附属学校の教員が作成した学年・学級経営案とを比較検討しまとめる。

(例2) 共通科目内容を視野に入れ、「学校の教育目標という全体的な枠組みの中で、各担任の教育観や児童生徒の実態把握に基づいた“個性的部分”をどのように学級経営に取り入れていくのか」という観点から、配属学級の事例を検討してまとめる。

#### エ 「学校経営に関する領域」の観点例

(例1) 校務分掌、安全管理体制、学校評価、特別支援教育の体制づくり、学校間・地域との連携や附属学校の環境を活かした学校づくり等の資料収集を行いまとめる。

(例2) 各市における教育研究センター等の目的、活動内容、所蔵している事例や資料等を調査し、その役割をまとめる。

(例3) 附属学校の学校経営案の内容が、日常の教育活動や学校運営のどこにどのように反映されているのか調査しまとめる。

#### ⑤ セミナー

実習中の毎週金曜日の6・7講目に、院生は大学で大学教員の指導のもと、実習の目的の明確化、テーマに対する実習へのアドバイスを受けるとともに、前週の振り返りと次週の目標、実習全体の振り返りを行う。また、指導案の検討、授業リフレクションの場として活用する。

なお、セミナーには、前週のまとめや課題、実践記録等をまとめて持参する。

(注：他の実習指導との調整により、セミナーが月曜日となることがある。)

#### (3) 事後指導

- ① 共通科目で学んだ理論と附属学校で観察した実践または自分自身の実践との関連について、大学教員のアドバイスのもとに討論し、理論と実践の融合についての意義について理解する。
- ② 附属学校における実習を通して見つけた学校現場に存在する種々の問題から、2年次の実習で解決策を実践するための課題を整理し、解決策を計画する。

#### (4) 実習レポート及び実習ノート

- ① 実習ノートは、収集した資料や指導案等を綴るとともに、実習テーマや4領域について学んだ内容等を日誌形式で記録する。
- ② 実習ノートの提出は、前期は7月13日まで、後期は1月17日までとする。
- ③ 実習レポートは、各自の実習テーマに基づきまとめる。提出締め切りは、2月1日とする。

#### (5) その他

- ① セミナーは、実習中の毎週金曜日（前半4回・後半4回）とし、教職大学院において6・7講目（18：00～21：10）の時間で、全ての大学院教員の指導のもと、課題に対する実習へのアドバイスを受け、実習を振り返り、次の目標の確認を行う。（H30年度は月13時実施もあり）
- ② セミナー等の時間を使い、指導案検討や事後の授業評価についての指導をする。
- ③ 指導案の書き方、授業記録の取り方、授業の分析の視点やまとめ方、実習ノートの記載の仕方等も大学院において日常的に指導をする。
- ④ 大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。院生の実習の様子を観察し指導するとともに、附属学校との連携の場とする。  
また、院生が授業をするときは、可能な限り参観し指導にあたる。
- ⑤ 実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法等	時間	運 営	講師・教員	備 考
事前 指 導	① 4月27日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的について</li> <li>・学校の組織運営に関する基本的な事項について 講義</li> <li>・学校現場の機能を概観する。</li> </ul>	15分  60分	実習委	野寺  森 藤森 龍島 梅村	双方向  各15分
	② 4月27日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習テーマについて、各キャンパスで交流・討 議。</li> </ul> (実習における各院生の課題を焦点化する) <b>【実習課題のレジュメの準備・発表】</b>	90分	各校実習 委員	指導教員	各キャンパス
	③ 5月18日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小学校における学校課題とリーダーの役割 (教頭)について」講義</li> <li>・「中学校における学校課題とリーダーの役割 (校長)について」講義</li> </ul>	45分  45分	実習委	三上  松橋	双方向
	④ 5月18日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習におけるマナーやレポートの書き方につい て指導する。</li> <li>・本実習中に達成すべきテーマを明確にする</li> <li>・自らのテーマを整理し、実習ノートの「実習の 目的」、「実習テーマ解決へ向けての計画」を記 載する。</li> <li>・授業実践、異校種一日訪問、学校研究会参加の 計画づくりをする。</li> </ul>	30分  60分	実習委	森	前半は双方向  後半は各キャンパス
	<b>【8時間】</b>					
前期 実 習	【実 習】 5月23日 (水) ～ 6月15日 (金) 4週間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生は、4領域のうち「教育課程の編成及び教 科等の指導」と「学級経営」の領域について、 自らテーマ解決のために観察や資料収集を行う。</li> <li>・附属学校では、院生は副担任として学級に入り、 担任の指導を受ける。さらに、自主的に調査研 究、テーマ解決に取り組み、副校長、教務主任、 生徒指導部長、研修部長等の指導助言を受ける。</li> <li>・授業実践、異校種一日訪問実習、学校研究会参 加等を計画に基づき実施する。</li> </ul>			指導教員	<b>◆セミナー</b> ①5/25 金 ②6/ 4 月 ③6/ 8 金 ④6/15 金 ※各1.5コマ ※金は67講目 月は34講目
	<b>【90時間】</b>					<b>【12時間】</b>
事後 指	① 6月22日 (金) 6講目	<b>【各キャンパスから1名発表】</b> ※発表10分、討議10分 <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察、資料収集、調査、実践等を通して明らか になったことを各自のテーマと関連付けて発表。</li> </ul> 釦・函⇒教育課程の編成及び教科等の指導に関する領域 札・旭⇒学級経営に関する領域	90分	野寺 ・院生	指導教員	双方向

導	② 6月22日 (金) 7講目	・各キャンパス内で、上記2観点を発表・交流。  【前期の実習ノートの提出期限は7月13日】	90分	実習委	指導教員	後半はキャンパス内発表
	【4時間】					
後 期 実 習	【実習】 11月1日 (木) ～ 11月30日 (金) 4週間	・4領域のうち「生徒指導・教育相談」と「学校経営」の領域について、自らテーマ解決のために観察や資料収集を行う。 ・附属学校では、院生は副担任として学級に入り、担任の指導を受ける。さらに、自主的に調査研究、テーマの解決に取り組み、副校長、教務主任、生徒指導部長、研修部長等の指導助言を受ける。 ・授業実践、異校種一日訪問実習、学校研究会参加等を計画に基づき実施する。			指導教員	◆セミナー ⑤11/9 金 ⑥11/16 金 ⑦11/26 月 ⑧12/3 月 ※各1.5コマ ※金は67講目 月は34講目
	【90時間】					【12時間】
事 後	③ 12月7日 (金) 6講目	【各キャンパスから1名発表】※発表10分、討議10分 ・観察、資料収集、調査、実践等を通して明らかになったことを各自のテーマと関連付けて発表。 釧・函⇒学校経営に関する領域 札・旭⇒生徒指導・教育相談に関する領域	90分	野寺 ・院生	指導教員	双方向
	④ 12月7日 (金) 7講目	【各キャンパスから1名発表】※発表10分、討議10分 ・後期での具体的な授業実践を例示し、その成果や課題について発表する。加えて、前期の実践と比較して自らの成長を記す。 札⇒旭⇒釧⇒函の順で各1名	90分	野寺 ・院生	指導教員	双方向
指 導	⑤ 12月14日 (金) 6講目	・学校課題というものが、実習で経験した4領域が相互に関連し合っていることを確認し、学校課題解決のためには広い視野に立っての取り組みが必要であることを改めて理解するとともに、次年度のテーマを展望する。 【「実習テーマのまとめ」によりキャンパス内で交流する】	90分	実習委	指導教員	各キャンパス
導	⑥ 1月11日 (金) 6講目	・次年度に取り組むべき課題について、実習を振り返りながらテーマを絞る。 【自己課題解決・検証実習の実習課題レジュメ準備】	90分	実習委	指導教員	各キャンパス
	⑦ 1月11日 (金) 7講目	・次年度に解決すべき「自己課題」を明確にし、課題解決・検証の具体的な計画を立てる。 ・新年度前の2、3月中に取り組んでおくべき各院生の課題を明らかにし、事前学習・調査の必要性和意識化を図る。 【実習ノートの提出期限は1月17日、 実習レポートの提出期限は2月1日】	90分	実習委	指導教員	
	【9時間】					

# M2ストレート 自己課題解決・検証実習

## 1 実習科目のねらい・目標

1年次の実習で作成した自己課題解決策を基に、試行的実践を連携協力校の配属学級あるいは学年で行い、その実効性について検証する。この実習を通して、実際に学校現場に生起している課題を自ら見出し、学校全体における位置づけを見極めて、具体的解決策を提案できるだけの基礎的力量を形成する。

## 2 実習の回数 【225時間：5単位】

(1) 事前指導	1回	2コマ	4時間
(2) 実習			217時間
(3) 事後指導	1回	2コマ	4時間

## 3 実習の具体的内容

### (1) 事前指導

- ① 院生が解決しようとする自己課題とその解決策の計画について発表させ、相互に意見を述べ合い、さらに大学院教員からのアドバイスを行う。
- ② 上記の議論等を踏まえ、自分の課題解決策の具体的計画を手直しする。

### (2) 実習

1年次での実習を通して見つけた学校教育に関する課題について、事前指導を踏まえて、大学院教員や実習校の指導教員の指導を受けながら、学級に入って課題解決策の実践と検証を行う。

### (3) 事後指導

- ① 課題解決策の実践内容及びその結果に対する考察について発表を行う。これにより、院生は自分以外の実践についても、その課題と成果について共有し合う。
- ② 上記の議論を踏まえて、自分の課題解決・検証の結果について、実習レポートをまとめる。

### (4) その他

- ① 大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。
- ② 実習については、実習期間中に217時間行う。概ね1日7時間で31日とする。
- ③ 事前指導及び事後指導は、それぞれ2コマ連続して行う。
- ④ 実習レポート及び実習ノートの提出期限は、7月27日とする。
- ⑤ 校種、実習課題、教科等に配慮しながら実習の実現を図る。
- ⑥ 前年度の2、3月には、実習課題の確定、実習校の選定、実習校訪問等を完了させておく。
- ⑦ 実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法等	時間	運営	指導	備考
事前指導	① 4月6日(金) 6講目	・実習の目的、進め方について  ・自己課題とその解決策の計画について発表し、 討論する。  【実習課題のレジюме準備・発表】実習計画案	30分  60分	実習委	野寺 指導教員	双方向  後半は各 キャンパス
	② 4月6日(金) 7講目	・前時の議論を踏まえ、自分の解決策の手直しを する。	90分			
【4時間】						
実習	【実習】 4月16日(月) ～ 6月29日(金)	・自己課題に応じた連携協力校（含：現職教員勤務校）での実習 ・基本的に月、火、水の週3日で31日間 （概ね1日7時間） ・大学院教員は、必要に応じて実習校を訪問し、 実習ノートの確認と指導を行う。			指導教員	
	【217時間】					
事後指導	① 7月6日(金) 6講目	・実習の成果と課題の発表と討論 ・MOBとの関連を図る。  【実習の成果のレジюме準備・発表】	90分	院生	指導教員	各キャンパス
	② 7月6日(金) 7講目	・本実習の成果を確認し、課題解決・検証の結果 について、実習レポートにまとめる。  【実習レポート・ノートの提出期限は 7月27日(金)】	90分			
【4時間】						

※ 前年度2月～3月に、様式1〔院生調書〕、2〔実習計画案〕、3〔実習校希望調査〕を作成させ、実習校選定の資料とする。

事前指導では、様式2の計画案を修正、深化させたもので討論をする。



# M1 現職教員 学校運営実習

## 1 実習科目のねらい・目標

(1) 学校におけるリーダー力の基礎となる協働遂行力及び実践的指導力の一層の向上のためには、教職大学院在学中において、学校を拠点にした調査研究及び実践を積み重ね、それを継続的に振り返る省察が必要である。

このために、包括的な学校改善及び学校力の総合的な向上に取り組んでいる特別連携協力校において、必要に応じてストレートマスターや初任者等のメンター役を務めながら、当該校の組織的な取り組み状況や成果、課題等を観察・調査するとともに、これまでの勤務校（前任校）と比較・分析するなどの省察をすることで、協働遂行力や実践的指導力を磨く。

(2) 特別連携協力校における包括的な学校改善等の状況を俯瞰・対象化して実習課題を深めるとともに、自己の研究課題への省察力をより深化させる。

## 2 実習の回数 【270時間：6単位】

(1) 事前指導	2コマ	4時間	
(2) 実習		254時間	(概ね週2日10時間×26週間)
(3) 中間指導	2コマ	4時間	
(4) 事後指導	4コマ	8時間	

## 3 実習の具体的内容

### (1) 事前指導

- ① 勤務校の学校課題を浮き彫りにするとともに、特別連携協力校（北海道教育委員会の「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校）等の取り組みを理解する。
- ② 自分の実習課題を焦点化し、年間を通じた実習計画（270時間）を作成する。

### (2) 実習

- ① 「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の取組を年間を通して俯瞰・調査する。
- ② 管理職や教職員からのヒヤリング及びジョブシャドーイングをする。
- ③ 学校経営への参画・運営をする。
- ④ 授業観察及び授業分析をする。
- ⑤ 初任者や若手教員等の人材育成にもかかわる。

## 【実習課題例】

---

(※「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の取組内容を参照)

- ◆「教育課程・指導方法等」〔ウ〕から
    - ・各学年の基礎学力を保障する教育課程・指導方法をどのように実践しているかを調査し、創意工夫を盛り込んだ教育課程編成案を作成する。
  - ◆「地域・家庭との連携」〔エ〕から
    - ・児童生徒が勉強と向き合う時間の確保（家庭学習やテレビ・ゲーム等の時間の目安の設定、生活リズムチェックシートの活用、無理のない定着を可能とする反復型宿題の工夫、家庭学習ノートの実践、土日及び長期休業中の家庭学習を担保する工夫、部活動や少年団活動の時間の見直しに関わる学校としての取組）の取組について調査研究する。
  - ◆「人材育成」〔エ〕から
    - ・日常授業の改善に直結する校内研究・研修の重点化に取り組む。
  - ◆「学校マネジメントその他」〔カ〕から
    - ・発達障害の児童生徒を含む全ての児童生徒が、より学習に集中できるようにするための学校環境、教室環境整備の在り方についての調査・研究に取り組む。
- 

### (3) 中間指導

- ①特別連携協力校等での事例収集や調査研究の成果を交流して、実習課題の見直しをする。
- ②実習を進めるに当たっての諸課題について交流し、課題解決に向けて、北海道教育委員会及び特別連携協力校と協議し改善を図る。

### (4) 事後指導

- ①特別連携協力校での年間を通じた実習の成果を報告・交流する。
- ②二年次の「学校課題解決・検証実習」につなげる見直しをもつ。

### (5) その他

- ①大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。
- ②実習時間については、年間を通して254時間行うものとされており、週2日概ね1日5時間で26週にわたって取り組むことになる。1日8時間の実習をすることも可能である。  
(ただし、必修の共通科目のある曜日〔M1共通科目：火・土、※M2選択：水〕を除く。)
- ③事前指導及び事後指導は、それぞれ2コマ連続して行う。
- ④実習レポートの提出期限は、2月15日（金）とする。
- ⑤実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法	時間	運営	講師・教員	備考
事前指導	① 4月13日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的および実施要領について理解する。</li> <li>・特別連携協力校等の「学校力向上に関する総合実践事業」の取り組みを理解する。</li> <li>・勤務校の学校課題を浮き彫りにするとともに、「学校力向上に関する総合実践事業」の取組と関連づけながら、自分の実習課題を焦点化する。</li> </ul>	30分 30分 30分	実習委員	野寺  指導教員	全体  キャンパス
	② 4月13日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した実習計画（270時間）を作成する。</li> <li>・レポート・実習ノートの書き方指導をする。</li> </ul> <b>【実習課題の設定、実習計画の立案】</b>	60分 30分	実習委員	実習委員 指導教員	キャンパス キャンパス
<b>【4時間】</b>						
実習	【実習】 4月16日 (月) ～ 1月25日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が設定した実習課題に即して、調査研究に取り組む。</li> <li>・実習の時間は、週2日10時間程度とし、年間26週間</li> <li>・大学教員は、必要に応じて実習校を訪問し、実習ノートの確認と指導を行う。</li> </ul> ※実習ノート〔本日の活動・学びの記録・校長から/月〕  <b>【実習実践記録と実習ノートの作成】</b>			指導教員	
<b>【254時間】</b>						
中間指導	① 7月30日 (月) 3講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習前半での成果を全員が報告・交流</li> <li>※院生主体で交流を進める 札⇒旭⇒釧⇒函</li> <li>一人5分発表 各キャンパス終了時に質問・討論10分</li> </ul> <b>【レジュメ(A4・1枚 両面)準備・発表 ※プレゼン可】</b>	90分	院生	指導教員	双方向
	② 7月30日 (月) 4講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3講目の継続。</li> <li>・各キャンパスごとに実習の見直しをする</li> <li>・実習課題に即して調査研究したことを振り返る</li> <li>・実習の進め方について見直しをする</li> </ul>	40分 50分	院生 実習委員	指導教員 指導教員	双方向 各キャンパス
<b>【4時間】</b>						
事後指導	①② 2月1日 (金) 6,7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習レポートのレジュメ発表と討論</li> <li>一年間、実習を通して調査研究したことについて</li> <li>札幌, 函館 ⇒ 発表8分、討議10分</li> </ul> <b>【レジュメ(A4・1枚 両面)準備・発表 ※プレゼン可】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営実習レポートと学校課題解決・検証実習の関連についての討論を行い、互いに成果を共有し合う。</li> <li>・二年度「学校課題解決・検証実習」の実習課題を見通す。</li> </ul>	180分	院生	指導教員	双方向
	③ 2月8日 (金)6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前週同様の発表</li> <li>旭川, 釧路 ⇒ 発表8分、討議10分</li> </ul>	100分	院生	指導教員	双方向
④ 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題解決・検証実習の事前指導までに実習課題(MOBにつながるテーマ)を確定する。</li> </ul>	80分	実習委員	指導教員	各キャンパス	
<b>【8時間】</b>						
		<b>【実習レポート・実習ノートの提出期限は 2月15日】</b>				

# M1 現職教員 リーダー力育成基礎実習 I

## 1 実習科目のねらい・目標

- (1) リーダー力の基礎となる協働遂行力の育成を図ることを主たるねらいとする。院生は実習課題に対して、教師間の協働による組織づくりあるいは保護者や関係機関と連携した組織づくりを行って、解決策を実践する。院生はそのリーダーとして活動し、結果について考察を加え改善策を提案する。
- (2) 提示されている実習課題が教科指導、生徒指導、教育相談、学級経営、学校経営といった各領域と何らかの関連をもっていることを実践的に理解する。

## 2 実習の時数 【180時間：4単位】

- |          |    |     |       |
|----------|----|-----|-------|
| (1) 事前指導 | 2回 | 4コマ | 8時間   |
| (2) 実習   |    |     | 164時間 |
| (3) 事後指導 | 2回 | 4コマ | 8時間   |

## 3 実習の具体的内容

### (1) 事前指導

- ① 「教育課程の編成及び教科等の指導」・「学級経営」・「生徒指導・教育相談」・「学校経営」の4領域の関連性及びリーダー力の基礎となる協働遂行力について講義と討論を行う。
- ② 4領域に関する各院生の実績（実践記録、活動報告書）内容を発表する。

### (2) 実習またはレポート作成

実習課題またはレポート課題に取り組む。

### 【実習課題の内容例】

- ◆ 勤務校の教科・特別活動・総合的な学習について、それらを学校の教育目標にどのように位置づけて教育課程を編成しているかを調査し、その上で、勤務校や地域の実態を踏まえて、教師間の共通理解のもとに協働しながら創意工夫を盛り込んだ教育課程編成案を作成する。さらに、教育課程の編成上、学校評価等の学校経営的な視点から考えておくべき点についてまとめる。
- ◆ 教科指導に関する校内または学年研修を企画し、その組織運営に関する計画案を作成して実際に実施する。その後、体制づくりや運営上の課題を明らかにして改善計画案をつくる。
- ◆ 学年または学校あるいは地域をも含めた行事を1つ取り上げ（地域をも含めたものとして、例えば地

域の伝統芸能の継承なども考えられる) 全ての子どもたちが主体的に取り組むための方策について具体的に提案し、同僚と協働して実践を行う。その結果を評価して残された問題点を明らかにしながら改善案を作成する。

- ◆ 勤務校における子どもの問題行動や教育相談の事例、保護者とのかかわりに関する事例と学校の対応、児童福祉施設等での事例と対応についての情報を集め、生徒指導・教育相談体制の充実策について、教師間の連携だけでなく保護者や関係機関との連携を踏まえて提案する。
- ◆ 校務分掌、安全管理体制、学校評価、特別支援教育の体制づくり、学校間・地域との連携や勤務校の環境を活かした学校づくりなどの学校経営上の課題に関する資料収集を行い、「校内遊具の安全管理策」「不審者対策」「避難訓練計画」「学校における特別支援体制作り」などの中から課題を1つ取り上げて、教師間の連携や保護者・関係機関との連携を踏まえた具体的な計画案を作成する。

---

---

#### 【実習課題をレポートで代替する場合のレポート課題】

※以下の2つの課題について事後指導時までにとまとめる。

- ◆ 事前指導で発表した実践活動の取組みについて、その課題が学校の機能上、どのような観点から取り組んだものなのかについてまとめ、さらに、別な観点を取り入れての取組みが可能と考えられる場合には、その考えについて述べる。
- ◆ 教員集団をまとめて協働しながら学校課題に取り組む、成功を収めた事例を調査して報告する。さらに、自分がリーダーとして協働体制を構築する場合の困難点を指摘し、それを乗り越える方策について考えられることを述べる。

---

---

### (3) 事後指導

レポート発表と討論を行い、成果を共有し合う。

### (4) その他

- ① 大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。
- ② 実習については、実習期間中に164時間行うものとされていることから、その時間の確保（おおむね1日4時間）のため、午後3時以降は実習の時間に充てることとする。  
なお、現職派遣教員については、1日8時間の実習をすることも可能である。ただし、月曜日は除く。
- ③ 事前指導及び事後指導は、それぞれ2コマ連続して行う。
- ④ 実習レポートあるいは代替レポートの提出期限は、8月17日とする。
- ⑤ 実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法	時間	運営	講師・教員	備考
事前 指 導	① 4月20日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的</li> <li>・4領域の関連性と学校課題解決に当たっての協働遂行力の重要性についての講義</li> <li>・各自の実習課題に基づく討論</li> </ul>	40分  50分	実習委	野寺  指導教員	双方向  後半は各キャンパス
	② 4月20日 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自の実習課題、院生の実績（実践記録、活動報告）などによる討論</li> </ul> <p>【実践記録、活動報告を準備・発表】</p>	90分	実習委	指導教員	各キャンパス
	③ 5月11日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校における課題とリーダーの役割（教頭）について」の講義</li> <li>・「学校における課題とリーダーの役割（校長）について」の講義</li> </ul>	45分 45分	実習委	水口  近藤	双方向
	④ 5月11日 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの書き方指導</li> <li>・各自の実習課題に基づく討論</li> </ul>	30分 60分	実習委	森 指導教員	双方向 後半は各キャンパス
【8時間】						
実 習	【実習】 5月17日 (木) ～ 7月13日 (金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5つの実習課題から、自分の課題を選択して実習に取り組む。</li> <li>・実習の時間は、概ね3時から7時までとする。</li> <li>・大学教員は、必要に応じて実習校を訪問し、実習ノートの確認と指導を行う。</li> </ul> <p>【実習レポートと実習ノートの作成】</p> <p>【実習免除者は、代替レポートを作成】</p>			指導教員	
【164時間】						
事後 指 導	① 7月20日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習レポートあるいは代替レポートのレジюме発表と討論</li> </ul> <p>【レジюме準備・発表】</p>	90分	実習委	指導教員	キャンパス
	② 7月20日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習レポートあるいは代替レポートのレジюме発表と討論</li> </ul> <p>【レジюме準備・発表】</p>	90分	実習委	指導教員	
	③ 7月27日 (金) 3講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートとリーダー力育成実習Ⅱの関連についての討論を行い、互いに成果を共有し合う。</li> <li>・後期の「リーダー力育成基礎実習Ⅱ」の実習課題の見通しを明らかにする。</li> </ul>	90分	実習委	指導教員	キャンパス
	④ 7月27日 (金) 4講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー力育成基礎実習Ⅱの事前指導までに実習課題を確定する。</li> </ul> <p>【代替レポート、実習レポート及び実習ノートの提出期限は8月17日】</p>	90分	実習委	指導教員	
【8時間】						

# M1 現職教員 リーダー力育成基礎実習Ⅱ

## 1 実習科目のねらい・目標

入学時までに絞り込んできた勤務校の学校課題解決に向け、その課題の位置づけを踏まえた上で、自分の学校や学級での試行的実践や関連する事例収集を行い、2年次の実習で行う課題解決のための計画を作成する。

## 2 実習の回数 【90時間：2単位】

(1) 事前指導	1回	2コマ	4時間
(2) 実習			82時間
(3) 事後指導	1回	2コマ	4時間

## 3 実習の具体的な内容

### (1) 事前指導

院生は勤務校の学校課題、学年課題、学級課題等と自分の課題との関連や位置づけを発表し、実習の目標を明確にする。

### (2) 実習

2年次の「学校課題解決・検証実習」のために勤務校の学級で試行的実践を行ったり他の連携協力校や教育研究センター等での実践例を調査したりする。また、生徒指導等にかかわる課題の場合には、児童福祉施設等の関係諸機関の役割も考慮に入れて、連携内容や体制づくり等の準備を行う。

### (3) 事後指導

本実習の成果を確認し、2年次に行う「学校課題解決・検証実習」へつなげる具体的方策を討論して明確な計画案としてまとめる。

### (4) その他

- ① 大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。
- ② 現職教員の实習については、実習期間中に82時間行うものとされていることから、その時間の確保（概ね1日4時間）のため、午後3時以降は実習の時間に充てることとする。
- ③ 事前指導及び事後指導は、それぞれ2コマ連続して行う。
- ④ 実習レポート及び実習ノートの提出期限は、12月21日とする。
- ⑤ 実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法等	時間	運 営	講師・教員	備 考
事前 指 導	① 10月5日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の目的</li> <li>・院生は自分の勤務校の学校課題、学年課題、学級課題等とその解決に向けて行う自分の課題との関連を発表し、討論する。</li> </ul>	30分	実習委	野寺	双方向
	② 10月5日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・院生は大学院教員の指導のもとで実習課題を明確に設定する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【実習課題のレジュメ準備・発表】</p>	60分		指導教員	キャンパス
【4時間】						
実 習	【実 習】 10月15日 (月) ～ 11月13日 (火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務校あるいは連携協力校での実習</li> </ul> <p>(各市にある教育研究センター等での実践例調査もある。また、生徒指導等に関わる課題の場合には、児童福祉施設等の関係機関の役割も考慮に入れて、連携内容等の準備を行う。)</p>			指導教員	
	【82時間】					
事後 指 導	① 11月30日 (金) 6講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習レポートのレジュメ発表と討論</li> <li>・本実習の成果を確認する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【実習レポートのレジュメ準備・発表】</p>	90分	実習委	指導教員	キャンパス
	② 11月30日 (金) 7講目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本実習の成果を確認し、2年次の学校課題解決・検証実習及びMOBと関連につなげる方策を討論する。</li> </ul> <p style="text-align: center;">【実習レポート及び実習ノートの提出期限は 12月21日】</p>	90分	実習委	指導教員	
【4時間】						



# M2現職教員 学校課題解決・検証実習

## 1 実習科目のねらい・目標

勤務校の学校課題に対してリーダー力育成基礎実習Ⅱで作成した解決策をもって、勤務校の教師集団の理解のもとに学校全体あるいは学年で取り組む。院生はそのリーダーとして取り組み、実践に対して検証を加える。この検証を通して、自己の実践を理論に照らして振り返り、理論と実践の融合の意義を理解するとともに現実的な学校課題解決への実践力とリーダー力を身に付ける。

## 2 実習の回数 【180時間：4単位】

(1) 事前指導	2回	4コマ	8時間
(2) 実習			164時間
(3) 事後指導	2回	4コマ	8時間

## 3 実習の具体的な内容

### (1) 事前指導

自分の実習課題を提示して大学院教員や院生と討論し、互いに課題と解決策の計画を深める。

### (2) 実習

学校課題に対し、リーダー力育成基礎実習Ⅱと本実習の事前指導により自己の課題を焦点化し、解決策の計画を固めている。その解決策を勤務校全体あるいは学年全体での取り組みに発展させ、その結果を理論に照らして検証する。院生自身はそのリーダーとして取り組む。

放課後又は夏期休暇中に、各地域にある教育研究センターや教育局等で、教員研修等の視察を行う。

※ この実習はストレートマスターの「自己課題解決・検証実習」と同時期に行う。現職教員院生とストレートマスターが同一校でペアとなって実習を行う場合であっても、2つの実習のねらいは異なることから、大学院教員は、「実習ノート」に基づいて両方を明確に区別しながら指導することになる。

従って、両実習の独立性は保たれる。しかも、両院生の課題が近接したものになるように組み合わせるので、両者は協力関係を築くことが可能であり、両院生にとっても成果が上がるものと期待される。

### (3) 事後指導

院生の実習内容、課題の解決方法等を含むレポート発表と討論を行い、互いに成果を共有し合う。実習で達成されたこと、残された課題等の発表と今後の課題解決への方策の討論を行いレポートとしてまとめる。

### (4) その他

- ① 大学院教員による巡回指導を、必要に応じて実施する。
- ② 実習については、実習期間中に164時間行うものとされていることから、その時間を確保（概ね1日4時間）する。
- ③ 事前指導及び事後指導は、それぞれ2コマ連続して行う。
- ④ 実習レポート及び実習ノートの提出期限は、8月9日（木）とする。
- ⑤ 実習の評価は、大学院教員が行う。

#### 4 実習の計画

過程	回・月日	本時の目標・授業の具体的内容や方法	時間	運営	講師・教員	備考
事前指導	① 3月20日 (火) 3講目	◆新年度4月は、現職教員が所属校を離れるのが難しい毎日が続くため、その点を考慮し、前年度3月に事前指導を実施する。  ・実習の目的、進め方について	30分	実習委	実習委員	各キャンパス
	② 3月20日 (火) 4講目	・院生の実習課題を提示し、大学院教員や院生と討論する。  【実習課題のレジュメを準備・発表】	150分	実習委	指導教員	
	③ 3月23日 (金) 3講目	・学校組織マネジメント、教育行政機関の役割等について ・院生の実習課題を提示し、大学院教員や院生と討論する	45分	実習委	水上	双方向
	④ 3月23日 (金) 4講目		135分	実習委	指導教員	
【8時間】						
実習	5月7日 (月) ～ 7月6日 (金)	・勤務校において、課題解決のための実習 ・実習の時間は、概ね3時から7時までとする。 ・大学教員は、必要に応じて実習校を訪問し、実習ノートの確認と指導を行う。			指導教員	
【164時間】						
事後指導	① 7月13日 (金) 6講目	・実習レポートのレジュメ発表と討論  【実習レポートのレジュメ準備・発表】	90分	院生	指導教員	キャンパス
	② 7月13日 7講目	・実習レポートのレジュメ発表と討論	90分	院生	指導教員	
	③ 7月26日 (木) 3講目	・実習で達成されたこと、残された課題等の発表と今後の課題解決への方策の討論。  【実習レポート・ノートの提出期限は、8月9日】	90分	実習委	指導教員	キャンパス
	④ 7月26日 (木) 4講目		90分	実習委	指導教員	
【8時間】						